

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 環境政策課 ☎24-5257

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度(mBq/m ³)	
		7/24～7/31	7/31～8/7
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.15
	南相馬市就業改善 センター (飯崎)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.051
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.033
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.16
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.021
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.023
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.025
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.035

測定地点		放射能濃度(mBq/m ³)	
		7/24～7/31	7/31～8/7
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.012
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.022

※検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定毎に変動します。放射能濃度の値が検出限界値未満の場合には、「不検出」とされます。

●渡邊正己京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

福島第一原発事故で飛散した放射性物質のうち短半減期の放射性ヨウ素131やセシウム134はすでに消失しています。しかし、半減期が30年のセシウム137はまだ存在していますが、それによる被ばく量は自然放射線による被ばく量と区別できないほど小さく健康影響の心配はありません。